

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念、事業所の理念を掲げ、「我が家」であることを大切に、地域の一員として暮らせるよう支援している。家族、近隣住民、ボランティアと日常生活、行事などで関わる機会を作っている。	母体の理念を基本に、地域密着型サービスの意義や役割を考え、事業所独自の理念を作り上げ、管理者と職員は共有している。利用者が地域の中で暮らし続けられるように、振り返りの機会を持ちながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの美容室の利用、スーパー、飲食店、商店街の利用等、地域資源の活用、交流を図っている。ボランティアの受け入れも可能な限り行っている。	地域の催し物へ積極的に参加しながら近隣の方々と気軽に挨拶を交わし合っている。また、中・高校生の職場体験やボランティアの受入れも積極的に行っているなど、地域との基盤づくりが築かれている。近隣の方々と触れ合う機会も多く、特に近くのスーパーなどでは日常的な交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学校や高等学校からボランティアや職場体験を受け入れている。文化祭に、入居者様の作品を展示させてもらっている。社協ボランティアセンターとも協力し、古切手切りのボランティアとして地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催。ホームの活動、取組み状況評価を報告し、意見を頂戴している。意見をもとに全体会議にて職員へ報告し、検討後各ユニットでサービスの質の向上に活かしている。	会議は定期的に行われ、2ヶ月間の状況報告及び事業所の取り組み内容や課題について報告され、メンバーからの質問、意見、要望を頂きながら双方向的な会議となるよう心がけ、頂いた意見をサービス向上に活かしている。今後は会議録を全家族へも配布し、会議内容についての確認を依頼しようとの考えを持っている。	会議は定期的に行われ、メンバーからの意見を頂き双方向的な会議となっているが、全家族への配布について不足を感じているところである。今後は利用者家族に対して定期的に会議録を送付することにより、会議内容についての理解を図って行くことが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの担当者とは会議やその他、日常的に情報交換を行っている。困難事例の相談にも応じてもらったり、初期集中支援チームからのDS受入れを積極的に行っている。	市担当職員、包括支援センター職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議によらず折にふれ、利用者の状況やニーズを伝え、相談、助言、連絡等が気軽になされており共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束抑止委員会にリーダー・管理者・事故抑止委員会が参加し、ユニット会議や全体会議等で伝達している。向精神薬や、センサーマットの使用法等検討し、主治医や看護師、薬局へ相談・報告している。	年間研修計画に従い、「身体拘束ゼロの手引き」を基に年1回研修会を実施し、利用者の尊厳を守るための認識を深めている。また、利用者の動きを見ながら事業所内外の移動については、さりげなく職員が付き添っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修に参加し伝達講習を行っている。入浴時や日々の関わりの中で全身の観察を実施。施錠しない、不適切な言葉についての検討を行い虐待防止に努めている。	事業所内研修の他、ミーティングの中でも話し合い、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みが実施されている。また、職員のストレスが蓄積されないよう、管理者は職員の相談事にも応じる関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を随時検討し、研修参加も行っている。成年後見制度の提案や市への相談等情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には文書で提示し、家族会や面会時にお話しし、理解を得ている。質問・疑問には随時、回答している。また、意見箱を設置し意見を頂戴し、会議等で職員へ伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、加速階、采井推進会議で意見を表せる場を設けている。面会時など意見を伺い、些細なことや要望も取り入れるよう努めている。	利用者には日頃の何気ない会話の中から、意見や要望を聞くようにしている。また、家族面会時には話しやすい雰囲気づくりに努め、職員の方から声をかけるようにして意見や要望を伺っている。いただいた意見や要望は会議等で話し合わせられ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で意見交換はできている。現場で積極的な意見や企画がしやすいよう雰囲気作りをしている。職員との面談をする機会を設けている。	会議やミーティング、普段の生活の中でも話し合いを行う等、管理者は常に話しかけやすい環境づくりを心がけている。職員からの意見や要望に耳を傾けるようにしており、必要時は個人面談の機会を設けるなど、共に話し合いながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や定期的な面談により、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。就業状況や口取得等、個々の希望が叶えられるよう職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修の機会はある。車内で全社員参加の研修は日程を調整し、より多くの職員が参加できるようにしている。事業所内では研修以外に定期情報誌やブログ作成等全員が目を通し確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	車内の他事業所とは管理者、ユニットリーダーを中心に定期的な交流を行っている。法人内、五泉市内の他事業所と交換研修を行い、お互いの良い点を学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学に来ていただき、不安の解消に努めている。その際、本人やご家族から要望をお聞きし、不安軽減に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族の要望や不安をお聞きし、良好な関係作りに努めている。面会時にも状態の報告を交えて話し合っている。入居すぐの期間では様々な不安や疑問がある為、話をする時間を長めに設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話合いの時間を設け、当グループホームの支援や他サービスについての説明を行い、希望を聞いている。サービス時の本人の言動から気持ちを探り、支援方法を検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や趣味など、本人が今まで行ってきた事や得意な事、本人の持っている能力が十分活かせるよう支援している。			
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の意向を伺い、一時帰宅や外出・外泊等、入居者がご家族と一緒に過ごせる時間を作っている。法事等も希望があれば参加している。	利用者や事業所にとって家族の支えは大切なものと考え、家族と共に支えあう姿勢を持ち、事業所での利用者の過ごし方や職員の関わりについて随時連絡している。通院の付き添いや自宅外泊等の協力もいただくなど、家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係性を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に合わせて定期的に馴染みの友人と外で会える時間を作っている。本人にとって大切な方といつでも話ができるよう、電話を繋いだり、手紙やはがきのやり取りをし関係性が途切れない支援に努めている。	広報誌や回覧板での情報を活用しながら、地域行事への参加や季節ごとの行楽地、要望があれば行きつけの理美容院や家族と共に外食を楽しんでもらう機会もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。また、遠方の家族には利用者自身から手紙を書いてもらうなど、サポートしながら馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声が掛け合えるようソファや、食席の配置など考慮したり、職員が間に入り、話の橋渡しをする等、入居者同士が自ら関わることができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族から電話や面会、物品寄付があり、交流がある入居者もいる。退居してもいつでも来所出来るよう声掛けや、雰囲気作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を参考にし、日々の生活の中での言動・訴え・希望・要望等を聞き、職員全員で情報共有し意向を汲み取る努力をしている。	入居前の自宅訪問や前事業者より、本人、家族から思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、センター方式を利用し面談や日々の生活行動と利用者同士の何気ない会話の中からも本人の意向の把握に努めるなど、職員間で話し合い、一人ひとりの思いに寄り添い生活を支えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、本人や家族に情報収集を行い、これまでの生活と変わらないように努めている。	利用開始前に情報を得て、日々の関わりの中で、これまでの暮らし方が継続できるよう意向の把握に努めている。地域の協力を得て畑での野菜収穫、また、紙工作、手芸など、楽しみの中に有する力を発揮できるよう継続的な生活支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で職員と1対1で関わるができる時間を作る中で、職員間で情報共有している。出来る能力を把握し、個々が活躍できる場を設けている。また、出来そうなことへの支援も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、半年ごとに担当職員と計画作成者がモニタリング評価、再アセスメントを行っている。面会時にご家族の意向を聞いたり、カンファレンスやユニット会議で意見を出し合ってケアプランを作成している。	センター方式と実践状況の生活記録を活用し、本人、家族の意向を聞きながら、計画作成者、担当職員がモニタリング、カンファレンスを行い計画を作成している。家族とは年2回面談を行い、意見や要望を聞く場を設け、話し合いながら、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者と関わりを多く持ち、生活記録・業務日誌に等に残し、職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の付き添い介助や、個別での外出支援をしている。市で行う軽体操教室に参加したり、希望者には職員がアロママッサージを行う等、個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関は在宅時の主治医を継続している。近所のスーパーや美容室、床屋を利用している。シルバー人材やボランティアの協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の係付けいへの受診を継続している為、医師や看護師との信頼関係は築けている。医師によっては往診を依頼している。何かあった時は早めの相談、早期受診を心掛けている。	利用者家族の希望を尊重したかかりつけ医と医師の往診による定期受診対応をしている。受診の際は、状態によってはバイタル表と日常生活ノートを持参し主治医と情報交換を行なわれており、適切な医療が受けられる体制が構築されている。受診結果については記録を残すとともに、家族にも報告を行い安心できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はいないが、社内看護師が週1回訪問している。電話での相談や指示を受けている。主治医への状態報告や相談を行い、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者やご顔z区との情報収集、交換を密に行い、出来るだけ早期に退院が出来るよう努めている。退院後も安全・安楽に生活できるようMSW等と連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期への希望をお聞きしている。状態変化があった時など、話し合う機会を設けたり、事業所の対応についても説明している。主治医へ相談し、助言をもらっている。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に利用者、家族に事業所の方針について説明し同意を得ている。状態変化時は話し合いの場を設け、事業所としてできることを支援している。過去には終末期を迎えた利用者を介護した事例はあった。今後も重度化や終末期の対応として、研修や会議を実施し方針を共有し、家族の望む取り組みができるよう主治医とも連携を図り、適切な支援ができる体制を図ることが期待される。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に緊急時の対応や勉強会、マニュアル確認を行っている。防災訓練時には消防署よりAED、救命講習を受けている。	急変や事故発生時の研修として、消防署よりAED、救命講習を受講し周知している。各棟の事務室にフローチャートを掲示し緊急時対応にも努めている。今後も、急変や事故発生時に備えた研修を前向きに考えている。	急変、事故発生時の備えとしてAED、救命講習等実施し周知されている。今後、講習会実施記録保管と身体状況に合わせた事故発生時の備えとしての行動対応マニュアルを整備し実践力を身に付けた対応が期待される。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜想定避難訓練を行っている。都度、マニュアルの見直しを実施。入居者の状態に合わせて居室変更も行っている。町内会の災害活動の集まりに参加し、協力も得ている。	災害時マニュアルの整備やAEDの設置もあり、年2回、昼夜想定避難訓練を実施しており避難場所や備蓄も整備されている。また、町内会の災害活動の集会にも参加し、町内会長の協力もあり地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格等、その方を理解した上で個々に合った声かけや言葉を選択している。プライドやプライバシーにも配慮している。	一人ひとりの利用者に対して、その人に合わせた対応を心がけている。排泄誘導時の声掛けや入浴時の同性介助を希望される人には職員交代で対応するなど、利用者の人格を尊重した対応を心がけている。	日々の生活支援の中で、状況や状態に合わせた言葉かけや対応など、プライバシーを損ねない配慮はされている。今後、現場実践として、事業所独自のプライバシー保護マニュアル作成と定期的研修を活かした実践対応が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや選択できる機会を作り、自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節を感じられるようフロアの飾りつけや外出、散歩等予定を立てて支援している。事業所内で出来る活動の幅を増やし、希望に添えるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には自分で服を選んで頂き、出来ない方へは好みを尊重している。外出時や行事の時には化粧をしたり、おしゃれをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やリクエストメニューを取り入れている。食事前のテーブル拭きや食後の下膳、洗い物等できる範囲で行ってもらっている。	当日の献立は利用者がボードに書き込み食事時に読み上げをされている。調理の準備は利用者の機能に合った活動と、利用者のエプロン姿は在宅の延長線上にあると感じられた。食前の準備から食後の片づけまで、様々な場面で利用者個々の力を活かしながら、職員と共に和やかな雰囲気の中で食事作りがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事量を提供している。状態に合わせて刻み食や粥、ムース食を提供。水分補給時は嗜好に合わせて、ストローを使用する等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態にあった口腔ケアを毎食後実施している。夜間は、義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。出来るだけトイレでの排泄が行えるようにしている。	事業所では在宅での生活習慣を活かした排泄支援を心がけており、トイレでの排泄を基本とした、意識や意欲を尊重した見守り誘導に努めている。ポータブルトイレの方も居られるが、日中はトイレ誘導に努めている。全職員が共通した排泄ケアに向き合い、自立に向けた支援の取り組みがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取をこまめに促したり、食材等に気を使っている。また、運動する機会を午前、午後に設けている。なるべく下剤に頼らない方法を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2～3回程度実施。馴染みの物品等を使用。体調面に考慮している。拒否がある方は時間をずらしたり、翌日に入浴してもらう等の対応をしている。	入浴日は設定されているが、希望があれば時間変更にも応じている。個々の入浴道具を揃え衛生面への配慮もされている。同性介助を希望する利用者には希望に沿った入浴支援がなされている。安全に入浴できる環境や事故防止の徹底に努め、季節によって菖蒲湯、ゆず湯、時には入浴剤を使用し、楽しいものとなるような工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミング や習慣を大切に昼寝や就寝をしている。不眠時は職員と話をしたり温かい飲み物を提供するなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で情報共有し、会議等で内服検討をしている。個人ファイルに薬剤情報を綴じ、副作用の確認をしている。内服変更時は、申し送りで伝達している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器下膳や食器拭き、洗濯たたみ等の家事作業を分担。花が好きな方には花を植えて水くれをしてもらう等、本人に嗜好から役割へ繋げていることで、楽しみ事や張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外出、近くの公園の散歩コースを廻るなどしている。できる範囲で外出をするようにしている。	家族、ボランティアの協力を得ての外出支援が展開されている。車いす利用者には職員が対応に努め、近くの公園を散歩コースとしたり、また、一面に広がる田んぼを眺めながらの外出も行われている。冬場を除き、庭の畑に季節の野菜作りも楽しむなど日常的に外出支援が実践されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、本人財布で小遣いを管理し、買い物が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人、大切な方に電話を繋いでいる。書いた手紙を職員とポストへ投函したり、はがき購入の代行を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消防署立ち入り点検や建築点検などを定期的に行い、安全面の確保に努めている。フロアにはその時々々の写真を掲示したり、五泉の名所等の写真を飾っている。状況に応じ、家具の配置転換を行い、心地よく暮らせる空間作りをしている。	共有スペースは広く、窓からは明るい陽射しが差しこむホール内は、ソファが2ヶ所に置かれ、個々の状況に合わせた開放感のある生活空間となっている。ホール内は利用者作品のちぎり絵、写真等がコーナーに飾られており、また随所に置かれた利用者お気に入りのソファや椅子がほどよい生活空間づくりとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中で1人掛けの椅子を設置する等、空間には配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス等馴染みの家具や寝具類の準備をしている。家族や友人との写真、茶碗や箸、マグカップ等、馴染みの物を使っている。	入居時に、本人、家族と相談し普段から使い慣れている家具や寝具類など、日常に使っていた馴染みの物を持参してもらっている。自宅生活の延長線上の環境で安心した生活ができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札があり、暖簾を使用している方もいらっしゃる。個々の状態に合わせて自立した生活が送れるよう支援している。		